

流通BMS[®]による決済情報と
商流情報の連携の検討について

【 2014 共同実証 】
実証内容、結果、今後の課題

2014年 12月

研究開発部

■流通システム標準活用 【決済情報と商流情報の連携】

●金融EDIを活用した効率化の検証

- × 現在、流通業界では新たな標準仕様である“流通BMS”や旧来の標準仕様である“JCA手順”を利用したEDIやEOSにより、商流情報をデータ交換する事で、人手による処理（伝票情報のパンチ処理、伝票情報との突合せ処理 など）をコンピュータを利用した自動処理等に移行し、業務処理の効率化や高度化を実現している。
- × しかし、実際の入出金情報と商流情報の突合せの段階で、コンピュータによる自動処理が行われていない業務（備品の購入、建屋の賃借、物品の配送など、様々な経費処理）が多くある。
- × これには、様々な要因があるが、システムの観点から整理すると、金融EDIの入出金メッセージ等で得られる情報項目と、社内での管理項目の粒度が異なる事が大きなポイントであると考えられる。
- × そこで、金融業界における国際標準（ISO20022）のXMLメッセージで、拡張されたEDI情報欄を活用し、総合振込→入金通知の金融EDIで流通業における各種決済関連業務の効率化を検証する。

2014年度 共同実証概要

□共同実証の目的

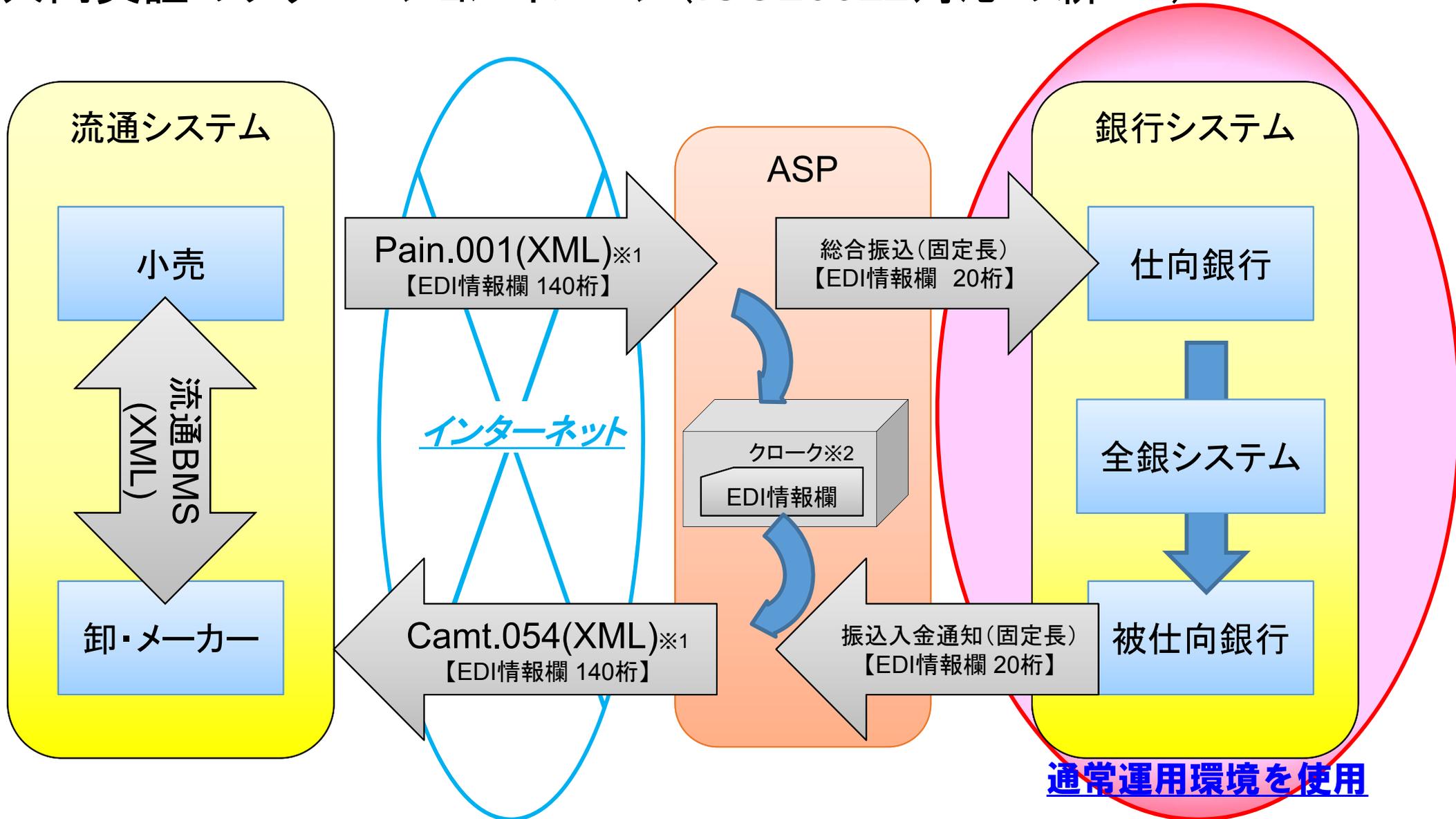
- 流通業界における決済（入金処理）業務の効率化の検証
銀行を経由する金流情報への添付拡張を実現することにより、企業の消込等業務効率化の検証を行うこととする。
 - 売掛金消込業務、販売条件・リベート入金管理、（経費消込）業務において、総合振込(Pain)と入金通知(Camt)のEDI情報欄を活用することによる効率化の検証を行う。
 - ✓ EDI情報欄を使用して、より確率の高い自動突合を行うために、現状では不足している“いつ、誰から、何の為の金”であるかという情報を交換する。
- インターネットを利用する際のセキュリティ要件の整理
 - 証明書や署名、暗号化等によるセキュリティなど、実運用に向けた課題・問題の抽出を行う。

□実証スケジュール

- 11月の第1～3週に金融EDIのデータ交換を行なった。
- 小売3社（アタックスマート、イオン、コメリ）、卸4社（花王カスタマーマーケティング、加藤産業、タカコー、山星屋）が参加。

共同実証ソリューションイメージ

共同実証のソリューションイメージ(ISO20022対応の新FB)



※1: 「pain. 001 (総合振込)」及び「camt. 054 (振込入金通知)」は国際標準 (ISO20022) のXMLフォーマット

※2: XMLメッセージの140桁を預り、20桁以内の引換コードを渡す

金融EDIにおける“EDI情報欄”活用による効率化の実証

2014年度の実証内容は以下の業務を実施

- [実証内容Ⅰ] 売掛金入金管理
- [実証内容Ⅱ] 販売条件・リベート管理

上記2つにつき現状の業務フロー、実証による業務フローなどを整理

- [実証内容Ⅲ] 経費支払業務については、2015年2月に実施

実証内容 I-1 売掛金入金管理[概要]

卸・メーカー

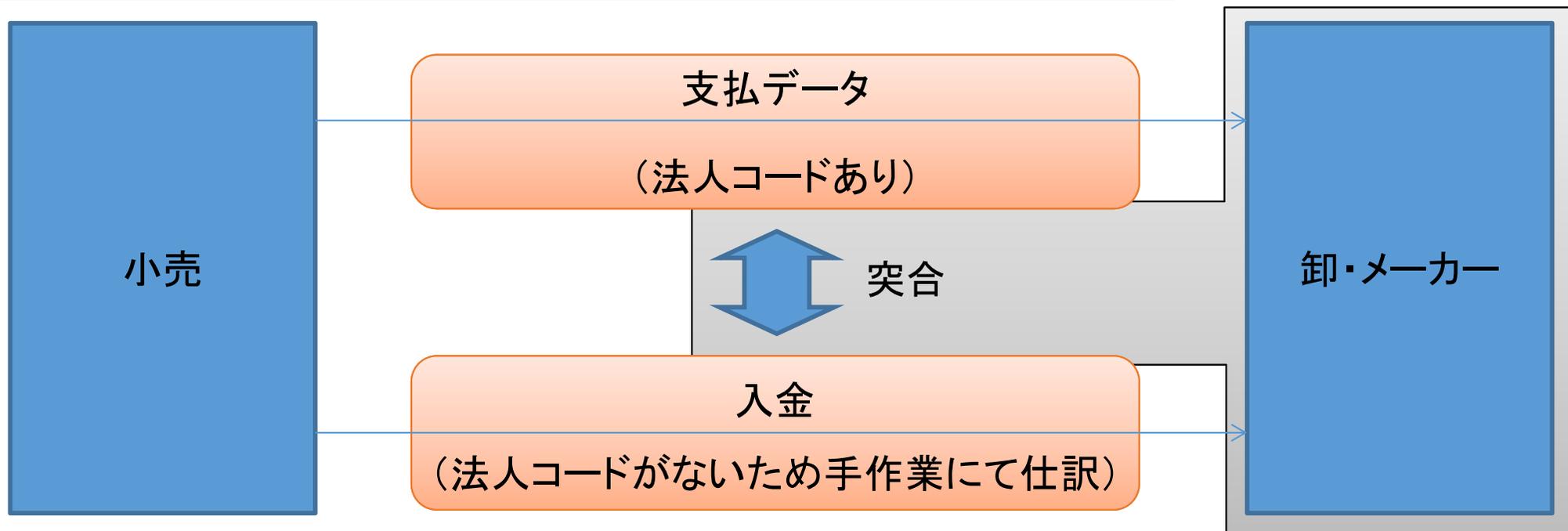
■現状の作業量(目安:大手卸)

約550件の入金を月1、2回×法人別

■現状の作業概要

支払データの法人コードと、実際の入金金額を突合するため、入金金額を法人毎に手作業にて仕訳し照合作業を実施。

1対1で突合出来ない場合は、手動で確認作業を実施している。



実証内容 I-1 売掛金入金管理[概要]

卸・メーカー

■現在の課題

- ・ 小売側では通常、法人別取引先コード別に買掛データと請求を照合し、支払いデータを送信。 請求が取引先コード1つに対して複数法人の場合も、取引先コードが複数ある場合も、法人別取引先コード別の請求、支払処理をする。
- ・ 卸・メーカー側では法人毎に照合処理が必要なため、手作業にて売掛金振替を仕訳する作業が発生している。 また、卸・メーカー側の管理上、小売側の送金単位と異なる場合もあり、同様の手仕訳が発生している。

■実証による効率化の手法

- ・ 法人コードにより法人毎の売掛金を自動特定
入金通知のEDI情報欄に「法人コード」、「取引先コード」、「金額」、「締日」の情報を入れることで、自動で入金消込を行う。

<参考> 実証にて使用した「EDI情報欄」の項目

□「売掛金の消込業務」の効率化

データ項目	桁数	使用桁数
データ区分	1	1
支払法人コード	13	4(左詰め)
請求取引先コード	13	5(左詰め)
支払金額	11	11(前ゼロ含む)
対象期間終了(締日)	8	8

※今回の共同実証では、上記の項目で検証を行ったが、実運用に向け、今回の実証から得られた課題を考慮し、多くの流通業界関係者に参加頂き、標準化をしていく必要がある。

<参考> 実証にて使用した「EDI情報欄」の利用項目案

□ 使用項目と桁数について

- ① 共同実証参加企業代表2社の利用項目をたたき台に、日本チェーンストア協会のニーズ調査分析結果を入れて利用項目案を作成。（下表）
- ② 流通BMSの使用項目は名称、桁数を合わせた。
- ③ 共同実証では、黄色網掛けを必要項目として使用した。

<EDI情報データレコード>								属性	バイト数	必須	初期値	繰り返し
項目名	(売掛)	桁数	利用有無	(リベート)	桁数	利用有無						
1	データ区分	データ区分		データ区分	1		C	1		3~5	売掛は3をセットする。(売掛=3、リベート=4、経費=5)	
2	番号1	請求書番号		契約No(小売)	20	○	C	20	○			
3	番号2	請求取引先コード	○	請求取引先コード	13		C	13	○			
4	コード	支払法人コード	○	支払法人コード	13		C	13	○			
5	取引区分	支払内容(4桁)		取引区分	5			5				
6	日付	ダミー		入金予定日	8	○	C	8	○			
7	金額	支払金額	○	入金金額	11	○	C	11	○			
8	締日、期間	対象期間終了(締日)	○	契約対象終了日	8			8	○			
9	連絡先	連絡先(電話番号)		連絡先(電話番号)	13	○		13	○			
10	担当者	担当者		担当者	12	○	C、全角	12	○			
11	自由使用	取引先コード		契約件名	36	○	C、全角	36	○			
12		店舗コード										
13		伝票番号	10									
	計		140		140			140			140桁とする。項目が多ければ、2レコード目を作成する。	

実証【売掛金の入金管理業務の効率化】結果①【卸】（1/6）

□ 実証実施日

2014年 11月 7日 金曜日

□ 実証対象データ内容

小売様からの8月中締めに対する振込データ

□ 実証データ内訳（小売様からの8月中締めに対する振込データ）

振込日	振込件数	振替件数
2014/08/15	17件	3件
2014/08/25	9件	4件
2014/09/01	17件	3件
2014/09/05	1件	
2014/09/10	13件	5件
2014/09/12	1件	
2014/09/16	1件	
2014/09/22	1件	
総計	60件	15件

※振替

通常処理（自動時訳等）で
消込対象を確定できず、
手仕訳等の作業が必要と
なった場合の処理

実証【売掛金の消込業務の効率化】結果①【卸】（2/6）

□ 効果対象処理

- ① 振込元 名寄せ処理
- ② 支払案内 検索処理
- ③ 支払案内 印刷処理
- ④ 金額等 確認処理
- ⑤ 入金振替処理

□ 振替処理1件当たりの効果時間

対象処理	通常時作業	実証時作業	効果時間
① 振込元 名寄せ処理（※）	0分	0分	0分
② 支払案内 検索処理	5分	5分	0分
③ 支払案内 印刷処理	5分	5分	0分
④ 金額等 確認処理	10分	0分	10分
⑤ 入金振替処理	15分	0分	15分
処理合計	35分	10分	25分

※金融機関提供のサービスにて名寄せ処理を行なっている

➤ 振替処理対象15件 × 25分 = **375分(6.25時間) / 月 削減**

実証【売掛金の消込業務の効率化】結果①【卸】(3/6)

□ 名寄せ処理プラス (金融機関提供のサービスを受けなかった場合)

対象処理	通常時作業	実証時作業	効果時間
① 振込元 名寄せ処理 (※)	7分	0分	7分
② 支払案内 検索処理	5分	5分	0分
③ 支払案内 印刷処理	5分	5分	0分
④ 金額等 確認処理	10分	0分	10分
⑤ 入金振替処理	15分	0分	15分
処理合計	42分	10分	32分

➤ 60件 × 7分 + 375分 = 795分(13.25時間) / 月 削減

□ 金融EDIの取引が拡大した場合 (上位取引700件、振替④⑤140件[実績]で試算)

対象処理	通常時作業	実証時作業	効果時間
① 振込元 名寄せ処理 (※)	7分	0分	7分
④ 金額等 確認処理	10分	0分	10分
⑤ 入金振替処理	15分	0分	15分
処理合計	32分	0分	32分

➤ 700件 × 7分 + 140件 × 25分 = 8,400分(140時間) / 月 削減

➤ 8,400分 × 12ヶ月 = 100,800分(1,680時間) / 年 削減

実証【売掛金の入金管理業務の効率化】結果①【卸】（4/6）

□ 実証結果からの考察

- 弊社の場合、銀行固有サービスであるバーチャル口座を活用し名寄せ業務を省き、売掛金専用口座として売掛金管理の効率化を高めているが、実証実験により、さらなる効率化が可能であることが確認できた。
現在でも多くの企業が時間をかけて名寄せ業務をしていることを考えると、その効果は弊社以上の大きな効果が上がるものと推測される。
- 今回の実証結果は、各種入金処理業務の効率化に大きく貢献するものと確信できる。それは、無色透明な入金通知情報に色（付加価値）を付けることが可能であることが明らかにできたことにある。
「〇〇さん」から「△△のお金です」情報は全ての企業の入金処理業務を効率化させるであろう。

□ 実証結果からの考察

- インターネットの発達、規制緩和等から、決済機能が多様化してきている。そんな中、決済サービスの質的向上を目指した、銀行界と流通業界の共同実証の取組みは、たいへん有意義であったと思われる。
今後、商流情報と決済情報を連携・融合させた、新たな銀行サービス（ニュービジネス）への発展という可能性もでてきた。
- 実証だけで終わることなく、早期に実運用できるよう、色の付け方や種類等、標準化のための体制作り・推進を望む。

実証【売掛金の入金管理業務の効率化】結果①【卸】（6/6）

□ 実証内容を含めた今後の課題

- 共同実証の目的・ターゲットより総合振込(Pain)と入金通知(Camt)の2メッセージに限定し検証を行ったが、企業会計（財務会計）の自動化を全銀協フォーマット入出金明細を使用している状況もあり、入金・出金の両方の情報取得のためにXML形式の「入出金明細」の追加・展開が必要。
- EDI情報欄の活用方法については実証時のアンストラクチャー（140桁固定）では拡張性への課題が考えられるためストラクチャーでの展開が望ましい。
- EDI情報欄のBase64(※)の使用ではエンコード・デコードの際の文字コードの考慮（文字化け）が企業間で必要となる、等調整事項が発生し標準化にはそぐわない。
※MIMEで定義された、バイナリデータをテキスト化(エンコード)する方法の1つ

実証【売掛金の消込業務の効率化】結果②【卸】（1/4）

□ 実証実施日

2014年 11月 7日 金曜日

□ 実証対象データ内容

小売様からの8月中締めに対する振込データ

□ 実証データ内訳（小売様からの8月中締めに対する振込データ）

振込日	振込件数	振替件数
2014/09/10	11	11
2014/09/12	1	1
2014/09/22	8	8
2014/09/30	4	4
2014/10/10	5	5
2014/10/15	1	1
2014/10/20	2	2
総計	32	32

※振替

通常処理（自動仕訳等）で消込対象を確定できず、手仕訳等の作業が必要となった場合の処理



[今回実証データ]と[各振込日の銀行入金明細データ]は1対1であったため、現在の入金業務と同じ業務手続きであった。また、入金時は金額確認のみ行っており、事前に手仕訳作業等で消込業務を行っていることから、全てが振替対象と判断。

実証【売掛金の消込業務の効率化】結果②【卸】（2/4）

□ 効果対象処理

- ① 振込元 名寄せ処理
- ② 支払案内 検索処理
- ③ 支払案内 印刷処理
- ④ 金額等 確認処理
- ⑤ 入金振替処理



振込入金通知の入手時点では、①～③と⑤は完了しており、④でのみ利用となる。ただ、現行の振込入金通知の情報で④は処理できることや社内証憑保管等の都合から、業務手続きとしては変わらず、確認できる手段が増えたという結果である。従って、作業時間は同様とした。

□ 振替処理1件当たりの効果時間

対象処理	通常時作業	実証時作業	効果時間
① 振込元 名寄せ処理	通常時作業と実証時作業とで、 作業時間は同じ時間であった		
② 支払案内 検索処理			
③ 支払案内 印刷処理			
④ 金額等 確認処理			
⑤ 入金振替処理			
処理合計			

実証【売掛金の消込業務の効率化】結果②【卸】（3/4）

□ 実証結果からの考察

- 振込入金通知の入手段階では、前頁（①～③、⑤）の処理は概ね終了しており、前頁（④）のみを実施している。従って、振込入金通知を起点とする、消込業務の手続きは過少であった。
- 消込業務は、事前に頂戴している受領や支払データ、その他資料（相殺明細等）などを活用し、入金予定金額の事前準備が行えている。従って、振込入金通知は、入金予定金額との照合が主たる用途であった。
- 消込業務の効率化には、法人コードや店番、伝票No.、分類、相殺、等の様々な情報が必要であった。
また、消込業務は請求処理後のできる限り早い段階から着手しており、業務の平準化を考える必要があった。
- 振込入金通知は、事前準備した入金予定金額との自動確認利用が考えられ、現在の銀行サービスと比較できる。

実証【売掛金の消込業務の効率化】結果②【卸】（4/4）

□ 実証内容を含めた今後の課題

- 振込入金通知入手までの入金予定金額の準備拡大
 - ✓ 実証では、以前より消込業務に活用できる情報（法人・店番・分類・伝票No.・相殺、等々）を頂戴し、振込入金通知までには入金違算の把握、入金予定金額を準備できております。よって、これら業務手続きの、他のお取引先様への拡大。
- EDI情報データへの各詳細情報をセットする仕組み
 - ✓ 振込入金通知でお送りするEDI情報データに、現在利用している「お支払明細書」にある各詳細情報を、自動的に適宜・適切に付加できる仕組みの欠如。
- 社内証憑保存の見直し
 - ✓ 支払案内等の紙保存から、電子保存への見直し

□ 今後期待される効果 他

- 振込入金通知による入金額照合の自動化
 - ✓ 振込入金通知までに入金予定金額を準備することで、入金金額の自動確認、仕訳記帳に繋がられる。

実証【売掛金の消込業務の効率化】結果③【卸】 (1/3)

□ 実証実施日

2014年 11月 18日 火曜日

□ 実証対象データ内容

小売様からの8月中締めに対する振込データ

□ 実証データ内訳(小売様からの8月中締めに対する振込データ)

振込日	振込件数	振替件数
2014/09/10	9	0
2014/09/12	1	0
2014/09/22	7	0
2014/09/25	1	0
2014/09/30	2	0
2014/10/01	1	0
2014/10/06	1	0
2014/10/10	2	0
2014/10/20	1	0
総計	25	0

※振替

通常処理(自動仕訳等)で消込対象を確定できず、手仕訳等の作業が必要となった場合の処理

実証【売掛金の消込業務の効率化】結果③【卸】（2/3）

□ 効果対象処理

- ① 振込元 名寄せ処理
- ② 支払案内 検索処理
- ③ 支払案内 印刷処理
- ④ 金額等 確認処理
- ⑤ 入金振替処理

□ 振替処理1件当たりの効果時間

対象処理	通常時作業	実証時作業	効果時間
① 振込元 名寄せ処理	支払メッセージ・支払案内等を元に、売掛金の消込は入金通知までに終わっている為この処理に違いは発生しない。		
② 支払案内 検索処理			
③ 支払案内 印刷処理			
④ 金額等 確認処理			
⑤ 入金振替処理			
処理合計			

実証【売掛金の消込業務の効率化】結果③【卸】（3/3）

□ 実証結果からの考察

- 翌月初に頂く支払メッセージ・支払案内等を元に、売掛金の消込は入金通知までに終わっている。そのため、実入金時は、入金額が支払案内の支払額合計と一致しているかの確認のみを行っている。
- 上記運用のため、振込入金通知を受信しても、現在の運用は変わらず、業務効率の向上は見込めない。

□ 実証内容を含めた今後の課題

- 今後の他業務における検証の経過を見て検討致したい。

□ 今後期待される効果 他

- 今後の他業務における検証の経過を見て検討致したい。

実証【売掛金の消込業務の効率化】結果④【卸】（1/2）

□ 実証実施日

2014年 11月 7日 金曜日

□ 実証対象データ内容

小売様からの8月中締めに対する振込データ

□ 実証データ内訳（小売様からの8月中締めに対する振込データ）

振込日	振込件数	振替件数
振込件数：2件		

※振替

通常処理（自動時訳等）で消込対象を確定できず、手仕訳等の作業が必要となった場合の処理

□ 振替処理1件当たりの効果時間

✓ 支払案内（比較元情報）が2ヶ月保存の為、検証出来ず。

実証【売掛金の消込業務の効率化】結果④【卸】（2/2）

□ 実証結果からの考察

- 入金通知（Camt）内の明細を確認することで、支払額の明細を確認出来るため、小売様への問合せ等が削減できる可能性がある
- 確認作業の手間（人件費）も省ける可能性がある

□ 実証内容を含めた今後の課題

- 流通BMSの支払明細と金融EDIで通知される明細を自動で照合/消込出来る製品が必要

□ 今後期待される効果 他

- 売掛金消込、照合の効率化を期待します

実証【売掛金の消込業務の効率化】結果⑤【小売】（1/2）

□ 実証実施日

2014年 11月 10日 月曜日

□ 実証対象データ内容

メーカー・卸様への9月中締めに対する振込データ

□ 実証データ内訳（メーカー・卸様への9月中締めに対する振込データ）

振込日	振込件数
2014/11/10	1
総計	1

実証【売掛金の消込業務の効率化】結果⑤【小売】(2/2)

□ 実証内容を含めた今後の課題

- 企業にてセットする情報以外で金額に影響する事項について、情報提供方法等の検討が必要。
 - ✓ 受取側が予定してきた金額と実際に入金通知で伝えられる金額との差異が発生する場合、その差額についての情報提供が無いと、システムとして正確な自動突合処理が出来ない。
 - ✓ 実運用に向けてメッセージ項目内容等、更なる検討が必要と考える。

□ 今後期待される効果 他

- 振込先毎に異なる入金手順を流通BMSで一本化する事で、次のメリットが考えられます。
 - ✓ 複数銀行への入金運用を一括処理
⇒ 作業者の個別運用削減
 - ✓ 入金運用を自動化
⇒ 業務の高速化と正確性の向上、人件費の抑制
 - ✓ 入金結果を電子データで保管
⇒ ハードコピー等の紙媒体保管抑制

実証内容Ⅱ-1 販売条件・リベート入金管理[概要]

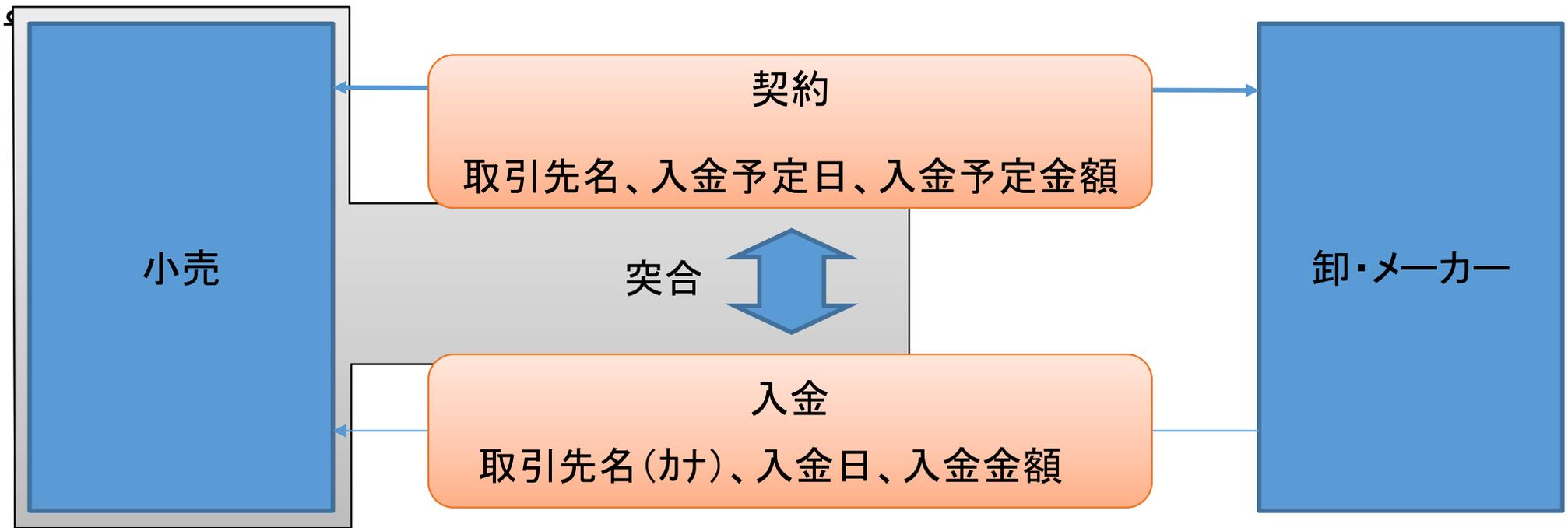
小売

■現状の作業量(目安:GMS)

約2,500契約／月 (入金は約1,300件／月)

■現状の作業概要

入金時の名義人(カナ文字)をもとに、契約時の契約情報と突合を行い、消込を実施。
カナ文字での突合のため1対1で突合出来ない場合は、手動で確認作業を実施している



■現在の課題

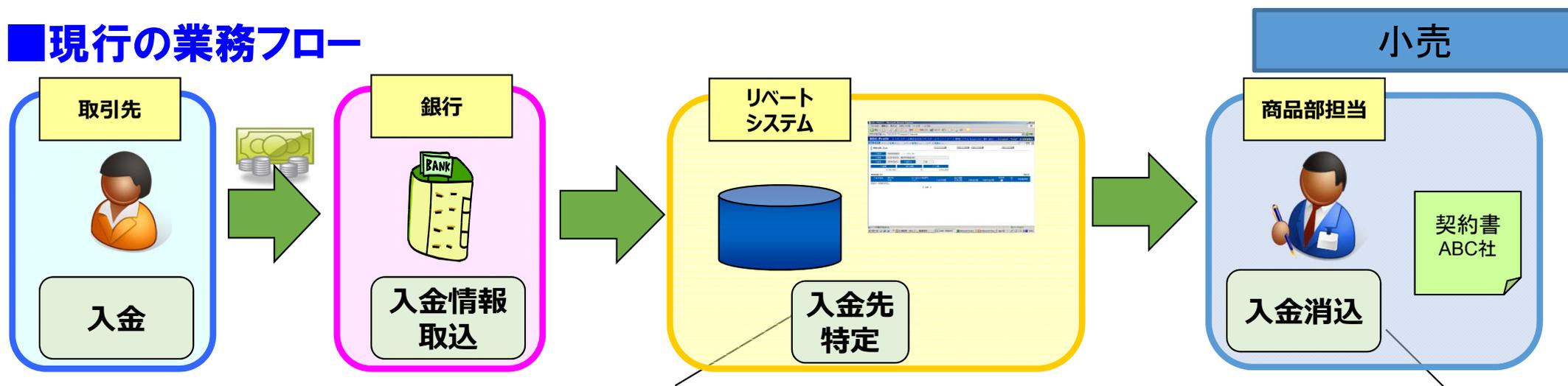
- ・ カナ文字列での突合のため入金先の特定ができない場合がある
(候補となる入金先が複数ある。候補となる入金先がない)
 - ※「候補が複数」となるのは、異なる法人でカナ名が同じ場合の他、同一法人に対し複数の入金先登録が存在する場合がある
- ・ 入金日、入金先で集約されるため、どの入金から消し込めばよいのか判断がつきにくい(入金予定日に変更になる場合もある)
- ・ 入金先の特定が正しく処理されない結果、入金情報の入金先が正しくならず、消し込みが出来ない場合がある

■実証による効率化の手法

- ・ 契約Noより入金先を自動特定
入金通知のEDI情報欄に「契約書番号」、「金額」、「入金予定日」の情報を入れることで、自動で消込を行う契約情報を、呼び出し、入金消込を行う。

実証内容Ⅱ-2 販売条件・リベート入金管理[現行の業務フロー]

■ 現行の業務フロー



<入金先特定>

入金日	名義人	入金金額
7/20	(カ I-ビ-シー	1,000,000

入金日	入金先	名義人	入金金額
7/20	A B C 社	(カ I-ビ-シー	1,000,000

入金時の名義人より入金先を自動特定

<入金消込>

[入金情報]

入金日	入金先	名義人	入金金額
7/20	A B C 社	(カ I-ビ-シー	1,000,000

[契約情報]

取引先	入金予定日	入金予定金額
A B C 社	7/20	50,000

契約情報の取引先、入金予定日と合致する入金情報を検索し、ヒットしたものから、入金消込を行う

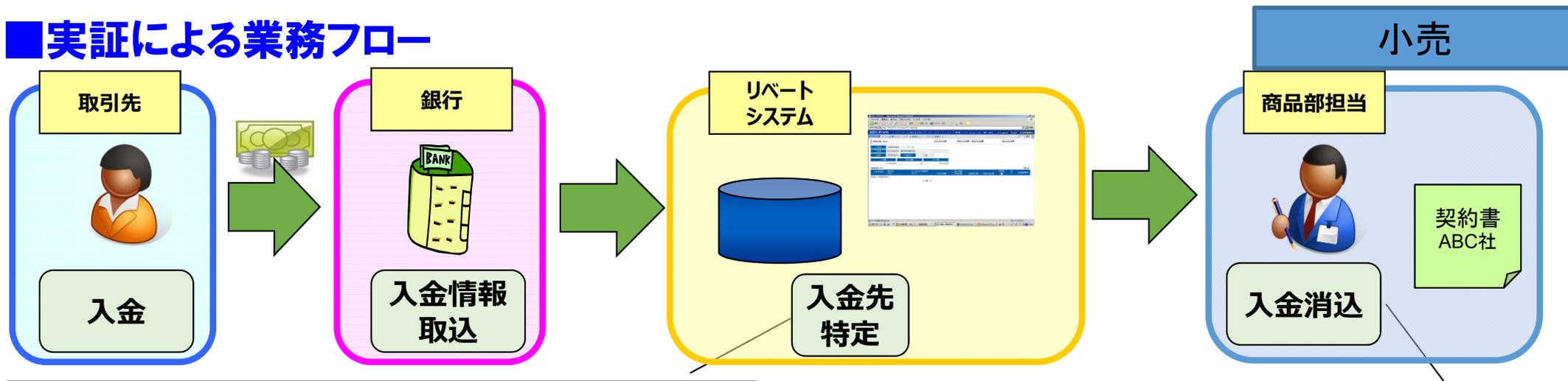
問題・課題

・カナ文字列での突合のため入金先の特定ができない場合がある
 (候補となる入金先が複数ある。候補となる入金先がない)
 ※「候補が複数」となるのは、異なる法人でカナ名が同じ場合の他、同一法人に対し複数の入金先登録が存在する場合がある

・入金日、入金先で集約されるため、どの入金から消し込めばよいのか判断が付きにくい(入金予定日が変更になる場合もある)
 ・入金先の特定が正しく処理されない結果、入金情報の入金先が正しくならず、消し込みが出来ない場合がある

実証内容 I-3 販売条件・リベート入金管理[実証による業務フロー]

■実証による業務フロー



<入金先特定>

入金日	名義人	入金
7/20	(カ I-ビ-シー	1,000,000

契約No : 10001 金額 50,000
 契約No : 10002 金額 30,000
 :

入金日	入金先	名義人	入金金額
7/20	A B C 社	(カ I-ビ-シー	1,000,000

契約No : 10001 金額 50,000
 契約No : 10002 金額 30,000
 :

契約Noより入金先を自動特定

<入金消込>

[入金情報]

入金日	入金先	名義人	入金金額
7/20	A B C 社	(カ I-ビ-シー	1,000,000

契約No : 10001 金額 50,000

[契約情報] ⇕ システム内で自動的に紐付き

取引先	契約No	入金予定日	入金予定金額
A B C 社	10001	7/20	50,000

消込を行う契約情報呼び出し、入金消込を行う。

(内部的に入金情報との紐付けが完了しているため、入金情報を検索する必要なし)

<参考> 実証にて使用した「EDI情報欄」の項目

□「販売条件・リベート入金管理業務」の効率化

データ項目	桁数	使用桁数
データ区分	1	1
契約No	20	10(左詰め)
入金金額	11	11(前ゼロ含む)
入金予定日	8	8
連絡先(電話番号)	13	12(左詰め)
担当者	12	12(全角6文字)
契約件名	36	36(全角18文字)

※今回の共同実証では、上記の項目で検証を行ったが、実運用に向け、今回の実証から得られた課題を考慮し、多くの流通業界関係者に参加頂き、標準化をしていく必要がある。

実証【販売条件・リベート処理業務の効率化】結果①(1/7)

□ 実証実施期間

2014年11月4日(月) ~ 2014年11月21日(金)

□ 実証参加企業(卸・メーカーリベートあり企業)

3社

□ 実証対象データ内容

卸売様からの8月中の振込データ

□ 実証データ内訳

振込日	振込件数	EDI情報件数(※)
2014/8/12	1	4
2014/8/15	4	103
2014/8/20	1	9
2014/8/29	2	3
総計	8	119

※EDI情報件数
該当振込内に記載された
契約No単位の情報件数

実証【販売条件・リベート処理業務の効率化】結果① (2/7)

□ 効果測定項目

- ① 自動消し込み（契約No+金額の一致）率
- ② 消込補助有り（①以外で項目の部分一致）率
- ③ 消込補助無し（項目の一致なし）率

□ 効果が期待できる業務（処理）

- ① 入金消込業務
 - 入金と契約との突合
 - リベート額の確認と消込額の確定
 - 入金消込
- ② 入金処理業務
 - 振込入金通知情報の取得
 - 入金内容確認（リベート入金であることの特定）
 - 入金情報のリベートシステムへの登録
 - 入金時の仕訳作成

実証【販売条件・リベート処理業務の効率化】結果① (3/7)

□ 効果測定項目の測定結果

- ① 自動消し込み（契約No+金額の一致）率 **43.2%**
- ② 消込補助有り（①以外で項目の部分一致）率 **29.6%**
- ③ 消込補助無し（項目の一致なし）率 **27.2%**

□ 年間効果（グループ全体）

対象処理	通常時作業	実証時作業	削減時間	削減率
① 入金消込業務	15,000時間	6,000時間	9,000時間	60%
② 入金処理業務	250時間	0時間	250時間	100%
処理合計	15,250時間	6,000時間	9,250時間	61%

※リベート入金専用の口座を用意して運用している。

そのため、日々の入金処理業務では、リベート入金であることの特定に時間を必要としていない。もし、リベート入金専用の口座を用意していなければ、②入金処理業務時間は、上記表の5倍（1,250時間）になる。

実証【販売条件・リベート処理業務の効率化】結果①（4/7）

□ 実証結果からの考察

- 総合振込にて明細を添付することにより、想定通り入金通知の内容確認が容易になることが実証できた。
- 実証の結果、業務効率化の効果は高いと考えられる。サンプル数は少ないが、自動消し込み（契約No+金額の一致）率は、43.2%（50%弱）となった。自動消し込み対象の契約は、入金消込業務自体が不要となるため、50%自動消し込み可能であれば、入金消込業務の工数は半減する。
- 入金日や入金額の変更（部分入金）など、予定通りに入金が行われなかった場合、卸・メーカーの担当者への確認などを含め、入金消込業務の負荷が上がる。今回、例外入金までは実証を行っていないが、振込入金通知に情報付与が可能となることを鑑みると、通常入金時以上に、例外入金時の入金消込業務の効率化に大きく貢献するものと推測される。

実証【販売条件・リベート処理業務の効率化】結果①（5/7）

□ 実証結果からの考察

- 送信側と受信側の金額差異などが起こる理由が明確になった。双方で改善することで業務効率化、自動消込率の拡大につながる。
- 他の銀行取引についても、応用できると思われる。
- 新標準を使用すれば詳細情報を伝えることができ、これまでの補完処理（銀行側のサービスや利用者側の開発等）が不要になる。システム運用面でもコスト減が期待できる。
- 総じて共同実証は十分に役割を果たせたと思う。実用に向けて、マッピング（国際標準のXMLメッセージと現行の全銀フォーマット）や、新旧並行稼働方法等、改善すべき課題を解決し、早期に今後の導入へ向けた道筋をつけることが望まれる。

実証【販売条件・リベート処理業務の効率化】結果①（6/7）

□ 実証内容を含めた今後の課題

- リベート契約の管理単位（粒度）が、小売と卸・メーカー間で異なるケースが見受けられた。これは、1つのリベート契約を双方の企業の組織体系にあわせて分割や集約した上で管理していることに起因すると推測される。今後は、管理単位（粒度）を小売と卸・メーカー間で揃えていくこと。ならびに、管理単位（粒度）が揃ってなくても自動入金消込が実現可能となるよう、連携項目を再考することが必要となる。
- EDI情報欄のBase64の使用は様々な調整事項が発生するので標準化は困難と思われる。
- マッピングシートの見直し。
 - ✓ 総合振込と入金通知に項目の差異がある。
 - 同じでは処理に問題が生じるのか？
 - XML採用時、データ項目の再検討が必要と考える。
- 標準化を進める為に、導入推進体制の整備が必要。

実証【販売条件・リベート処理業務の効率化】結果①（7/7）

□ 今後期待される効果 他

- 卸・メーカーから、小売に対して発行している計算結果通知書が不要となり、ペーパーレスならびに省力化が図れる。
- 入金管理は効果が見込まれるので、スモールスタートができるよう準備をお願いしたい。

実証【販売条件・リベート処理業務の効率化】結果②(1/5)

□ 実証実施日

2014年 11月 10日 月曜日

□ 実証対象データ内容

卸様からの9月末締めに対する振込データ

□ 実証データ内訳(卸様からの9月末締めに対する振込データ)

振込日	振込件数	振替件数
2014/10/15	1件	12件
総計	1件	12件

※振替

通常処理(自動仕訳等)で
消込対象を確定できず、
手仕訳等の作業が必要と
なった場合の処理

実証【販売条件・リベート処理業務の効率化】結果② (2/5)

□ 効果対象処理

- ① 支払案内 検索処理
- ② 支払案内 印刷処理
- ③ 振込元 名寄せ処理
- ④ 金額等 確認処理
- ⑤ 入金振替処理

□ 振替処理1件当たりの効果時間

対象処理	通常時作業	実証時作業	効果時間
① 支払案内 検索処理	2分	1分	1分
② 支払案内 印刷処理	1分	1分	-
③ 振込元 名寄せ処理	2分	1分	1分
④ 金額等 確認処理	5分	2分	3分
⑤ 入金振替処理	10分	3分	7分
処理合計	20分	8分	12分

実証【販売条件・リベート処理業務の効率化】結果② (3/5)

□ 振込処理1件(データ数1件)当たりの効果時間

対象処理	通常時作業	実証時作業	効果時間
① + ② + ③ 処理	5分	3分	2分
④ + ⑤ 処理(データ数)	1.24分	0.41分	0.83分

□ 金融EDIの取引が拡大した場合(1年間)

- ✓ 通常時の処理時間
- ✓ 年間振込件数 6,734件(データ数41,169件)
- ✓ $6,734\text{件} \times 5\text{分} + 41,169\text{データ} \times 1.24\text{分} = 84,719.56\text{分}(1,411.99\text{時間})$

- 自動化可能処理による**短縮時間**
- 自動確定処理可能数 5,175件(データ数35,766件)
※次ページ赤字部分考察から

➤ $5,175\text{件} \times 2\text{分} + 35,766\text{データ} \times 0.83\text{分}$
 $= \underline{40,035.78\text{分}(667.26\text{時間})}$

□ 約47%の削減効果が得られる。(販売条件・リベート処理のみで)

実証【販売条件・リベート処理業務の効率化】結果② (4/5)

□ 実証結果からの考察

- ①今回の実証実験の場合、時間単位で60%程度の削減効果が得られている。
- ②全ての仕訳が自動化できるとは思われないが、弊社の場合、仕訳データの約82%が自動化できると思われるため、リベート処理業務全体においては、約50%の削減効果が得られと推測できる。
- ③リベート処理業務が精算業務全体に占める割合は、弊社の場合、時間単位で23%ほどであるため精算業務全体に対しての削減効果は、10%強が見込める。

実証【販売条件・リポート処理業務の効率化】結果②(5/5)

□ 実証内容を含めた今後の課題

- 今回の共同実証に際しての前提条件として、自社データと相手方データを関連付けできる項目（今回の場合契約No.）が必須であり、この項目の標準化及び項目情報の伝達の効率化によって、さらなる効果が得られると思われれます。

□ 今後期待される効果 他

- 今回の共同実証は、流通情報システムと金融情報システムという双方高度化されたシステムの垣根を超えたプラットフォーム作りの試みであり、今回の共同実証を含め更なる多様性に順応できるものと思います。

整理・調整が必要な事項①（継続検討要）

◆ 実運用（201X年）に向けて

- 対象サービス範囲
 - ・ 総合振込、振込入金通知、入出金明細の追加 等
- ASPのビジネスモデル
 - ・ 参加企業数、運営主体、費用負担、料金体系、契約スキーム 等
- ネットワーク、通信手順
 - ・ 銀行、他業界のニーズも含めた整理
- 証明書
 - ・ 利用する証明書の検討（署名アルゴリズムも含め）
- EDI情報欄のXMLスキーマにおける格納領域
 - ・ Supplementary Data／Unstructured、バージョンアップへの対応
- EDI情報欄の参照機能（ASPのサービス）
- 導入時のテスト運用の有無

- 実運用開始時期

201X年度 実運用に向けて、細かな検討を進めていく必要性がある！

整理・調整が必要な事項②（継続検討要）

◆ 実運用（201X年）に向けて

今回の共同実証で得た、実証結果及び課題や今後の期待を基に、
流通業界としての継続的な検討をおこなう事項

➤ 金融連携活用分野の洗い出し

- ✓ 今回の実証内容以外に、様々な分野での効果が考えられる。同じインフラを利用する事で効率化が図れる業務を抽出していく。

➤ EDI情報欄の標準化

- ✓ 売掛入金処理、取引条件・リベートの再検討
- ✓ 経費 等

➤ EDI情報欄の金融機関と連携活用

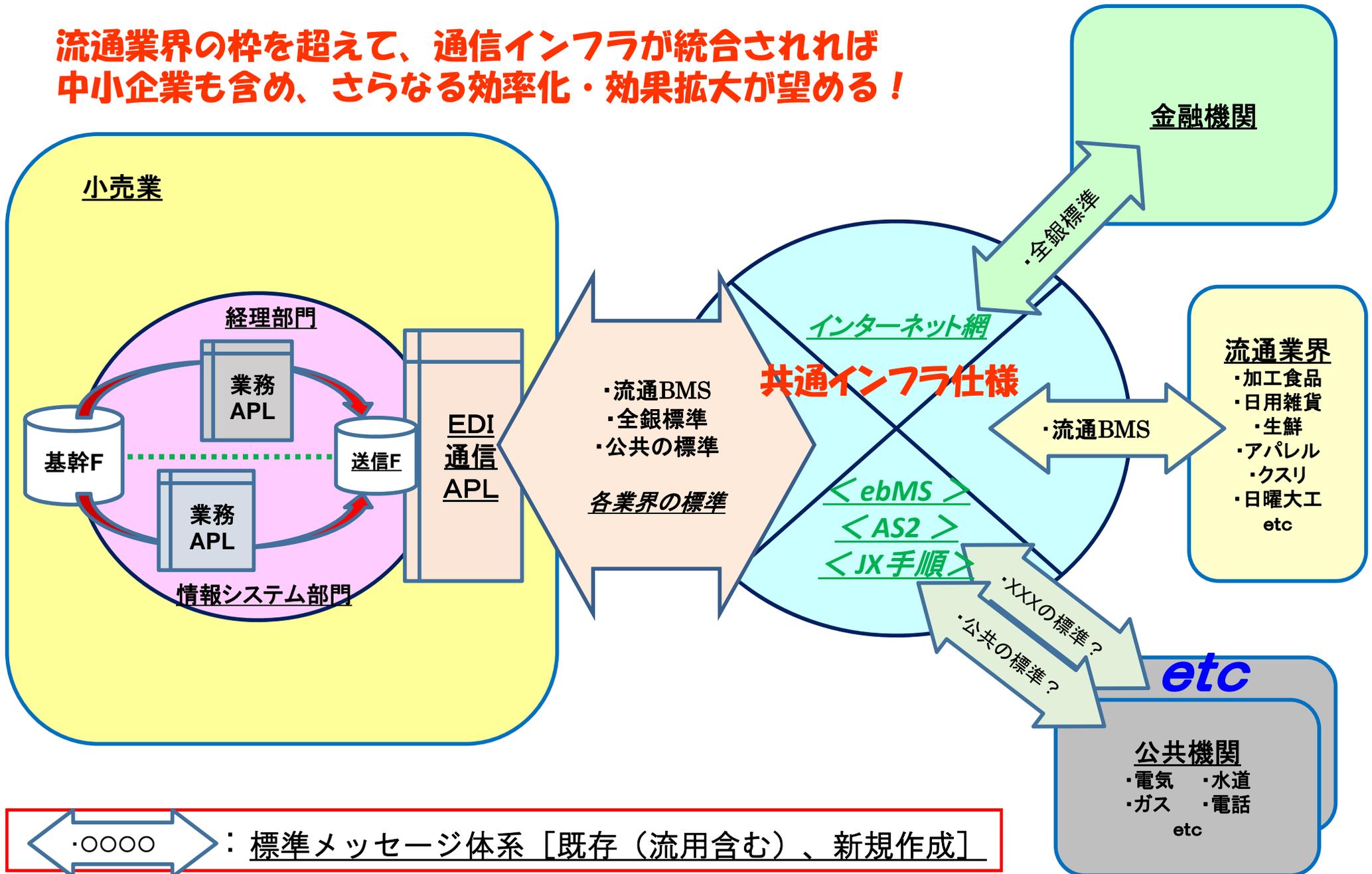
- ✓ 金融機関利用者だけでなく、金融機関と情報共有する事で何らかのメリットを享受できないかの検討も必要

➤ 流通業界内でのスモールスタート

201X年度 実運用に向けて、細かな検討を進めていく必要性がある！

業界を越えた企業間情報交換インフラの標準化へ！

流通業界の枠を超えて、通信インフラが統合されれば
 中小企業も含め、さらなる効率化・効果拡大が望める！





<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/>